

今回は、令和6年3月26日(火)に開催しました第3回ラビドール御宿・東京セミナーの質問と回答についてお知らせ致します。

Vol.63でも記載しましたが、講演者の私がとんでもない雨男で、第3回も春嵐のような大雨になってしまい、応募は29名様ありましたが、前日からのニュースで外出を控えるよう報道され、キャンセルが続出し、参加者は12名様に減少してしまいました。

しかし、荒天の中にもセミナーに会場された参加者は、熱心に講演を聞き、長谷川式簡易知能評価スケールのテストも真剣に取り組んでいました。

なんでも質問コーナーも従来と同様に多数の質問があり、セミナー終了後は、個別相談が行われ、ご本人が抱えているプライベートな問題に対し、回答しています。

第3回東京セミナーの様子は、5月21日(火)発売のNHKテキスト「きょうの健康6月号」に掲載されていますが、この記事広告に掲載されていない質問及び回答を下記にご紹介します。

記

質問：重要事項説明書の中で、介護を手厚くするための職員比率を2：1と表示されていますが、一般的な職員比率3：1とラビドール御宿の2：1では、具体的に何がどう違うのか。具体的な例で教えてほしい。

回答：ラビドール御宿の重要事項説明書の職員比率2：1は、介護が必要な方2人に対して介護職員を1人配置していることとなりますが、実際の職員比率は1.2：1で介護職員を多く配置しています。

具体的な例として、ラビドール御宿では中度以上の認知症になりますと認知症専門フロアでの生活が始まります。

一日の生活の中で、体操プログラムが行われますが、個別性を重視しており、参加者は原則フロアで一緒に体操をしますが、体操したくない方は強制ではないのでご自身の個室で別な運動などで過ごされます。

また、皆さんが体操されている様子を見たい方は見守りだけ参加します。

このように、全体の体操をサポートする介護職員、個室での運動サポートをする介護職員、離れた所で体操を見ている方をサポートする介護職員を配置できていることが、手厚く職員配置がされている実例ではないでしょうか。

今回、セミナー参加された9組12名の内、2組4名の方々がラビドール御宿の一泊二日体験入居を実施されています。

今回、荒天で参加できなかった方々の要望もあり、第4回東京セミナー開催を秋には予定していますので、期待してください。

以上

